

令和8年度第1回酒田市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時：令和8年8月4日（火）午前13時30分～14時15分

場 所：酒田市役所3階 第2委員会室

出席者：朝岡剛委員、阿曾眞由美委員、高橋美恵子委員、岡田恒弘委員、後藤香委員、佐藤晃委員、荒生桂子委員、
小野英男委員、奥山悟委員、以上9名

欠席者：なし

事務局：医療介護連携調整監、高齢者支援課長、高齢者支援課長補佐、地域包括支援係副主幹、地域包括支援主査
兼係長、介護給付主査兼係長、介護給付係副主幹

1 開 会

2 協 議

（1）令和7年度 酒田市地域包括支援センター運営状況について （資料1）

委 員	高齢者虐待について、老老介護などの切実な状況が伺われる。警察介入の事例が7件あるが、可能な範囲で概要を紹介していただきたい。また、家族交流会が介護疲れの解消など虐待の歯止めになるよう機能できればと思うが、家族交流会に参加するきっかけを把握していれば教えていただきたい。
事務局	高齢者虐待に関しては、高齢者と子の世帯で、続柄として息子からの虐待が多い状況。周囲からの通報や本人の警察通報が、これまでの周知活動から増加している。警察からの連絡があると、市のケースワーカー等担当者が訪問し事実確認を行い、虐待の判断をしている。 家族交流会参加のきっかけについては、地域包括支援センターからのお誘いしたり、居宅介護支援事業所から紹介をいただいたり、本人からの直接申し込みもあると思われる。
委 員	子供からのきつい言葉や、子供への経済的支援等について、高齢者本人から相談されることがある。相談の根本は虐待に関連する部分があるように思う。虐待疑いととれるような場合は、高齢者支援課とも連携していきたいと考える。
事務局	高齢者や障がい者の虐待については、警察、法務局、弁護士等関係機関の参加を得て虐待防止協議会を年1回開催し、ネットワーク強化や事例検討等を行い対応の共有等を行っている。引き続き、どの関係機関に相談があっても対応できる体制づくりが重要と考える。
委 員	成年後見制度の申立支援を行う NPO との連携について、実績があれば教えていただきたい。
事務局	直接的に連携して申立支援を行った事例はない。令和7年10月に社会福祉協議会に酒田市権利擁護・成年後見センターが設置され、地域包括支援センターでも連携して業務を行っている。

（2）令和8年度 酒田市地域包括支援センター事業実施方針について （資料2）

委 員	成年後見制度の利用を必要とする人が尊厳のある本人らしい生活を継続できる体制の整備を目指すとするが、具体的な体制と地域包括支援センターの事業内容を伺いたい。また、酒田市権利擁護・成年後見センターにどのような連携を期待しているかも伺いたい。
事務局	地域包括支援センターの総合相談や権利擁護事業の中で、関係機関と調整しながら必要な方の制度の利用に繋いでいきたい。後見センターと地域包括支援センターとの連携体制については、お互い後見制度の周知や相談機能を持っているため、協力しながら高齢者のための支援ができればよいと考えている。

3 報 告

(1) 令和7年度 酒田市地域包括支援センター事業評価について (資料3)

委 員	包括支援センターかわみなみの評価結果のレーダーチャートがかなりいびつだが、その内容を把握しているか。
事務局	総合相談では、複合課題の相談分析を同様の相談に活かしていない点、ケア会議では、検討した個別事例のモニタリング体制構築ができていない、生活支援コーディネーターと地域高齢者のニーズや社会資源の協議ができていないという評価があり、低い評価につながったものと見ている。 地域包括支援センターの委託4業務は、かわみなみに限らず全ての包括で実施できていると認識しているが、この評価はあくまで自己評価のため、事業の実施や地域との関わりについて、課題を持っている部分もあると思われるため、評価の低い部分については包括支援センターと共有しながら、行政も一緒に考えていきたい。
委 員	民生委員として地域包括支援センターとの関わりが多い。かわみなみは近年センター長の交代もあり、評価者それぞれの自己評価なので差は出てくる。自己評価が高いから良いとも限らず、問題意識があり厳しくつけければ低い結果、問題意識がなければ良い結果になることもあるため、その内容も精査いただきたい。
事務局	問題意識があり厳しい評価をつけると低い結果になることもあるかと思う。個々の事業については、地域包括支援センターにヒアリングを行い、達成に向けて低い評価とのギャップを埋めていけるよう支援していきたい。

4 その他

- ・市民認知症講演会の案内

5 閉 会